

第6章 クジャクの新規捕獲手法の試行

6.1 はじめに

黒島においては、クジャクの新規駆除手法として、これまでにねぐらでのワイヤーや空気銃による駆除を実施してきた。しかしながら、ねぐらへのアクセスや銃器の使用が困難な地域での捕獲や複数個体の一斉捕獲には新たな手法の開発が必要である。そのため、本年度は昨年度から継続実施する鳴声等によるクジャクを誘引すると同時に、ボウネット、ネットランチャーおよびくくりわなによる捕獲を試行した。

6.2 方法

(1) 調査地域

調査地域は黒島内のクジャクが比較的多く生息する地域とした。

(2) 調査期間

調査期間を表 6.1 に示す。

表 6.1 新規捕獲手法調査日

調査日	調査項目
平成29年7月20～21日（2日）	誘引およびボウネット
平成29年12月22～25日（4日）	誘引、ネットランチャー
平成30年2月27日～3月1日（3日）	誘引、ネットランチャー、くくりわな

(3) 調査機材および設置方法

1) 誘引餌

ボウネット使用時の誘引餌にはソーセージおよびコオロギ（缶詰）を使用し、ネットランチャーおよびくくりわな使用時の誘引餌にはトウモロコシ（牛用飼料）を用いた。

2) 誘引音声および写真

誘引には繁殖期のクジャクの鳴声の音声およびクジャクの写真を印刷したターポリン生地を用いた。

3) ボウネット

ボウネットの設置状況を図6.1に示した。ボウネット等はすべて夜明け前に設置を完了した。

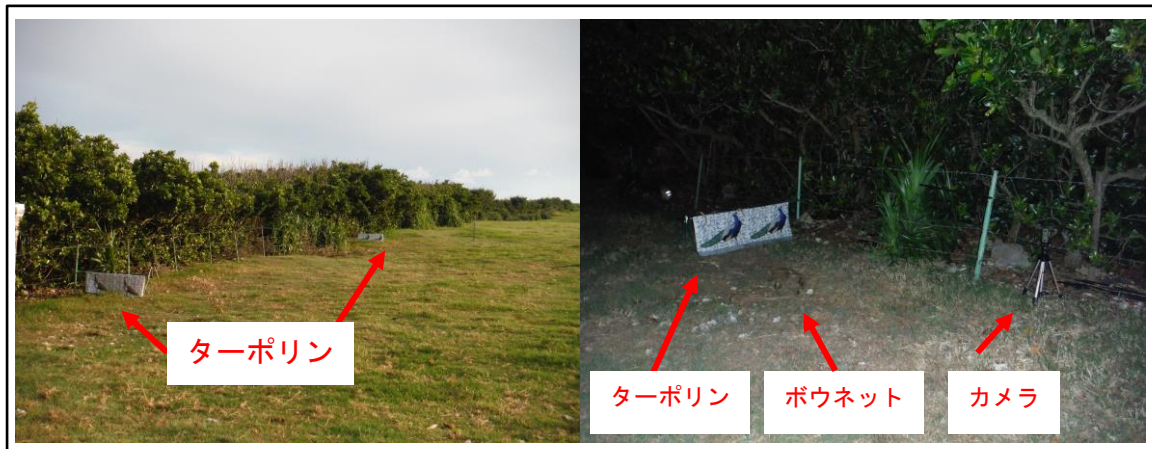


図6.1 ボウネット設置環境（左）およびカメラ位置図（右）

4) ネットランチャー

ネットランチャーの設置イメージを図6.2に示した。ボウネット等はすべて夜明け前に設置を完了した。



図 6.2 ネットランチャー設置状況

5) くくりわな

くくりわな設置状況を図 6.3 に示した。わなは VARIVAS150 号 (MORRIS 社製) をくくりひも状に結び、それを 1 本約 3m (1.5mm 径) のワイヤー製の道糸に約 30cm 間隔で固定し、地面にペグ留めした。当該くくりわなは計 9 セット (くくりわな 63 輪) 使用し

た。また、わなは誘引餌を囲うように設置した。

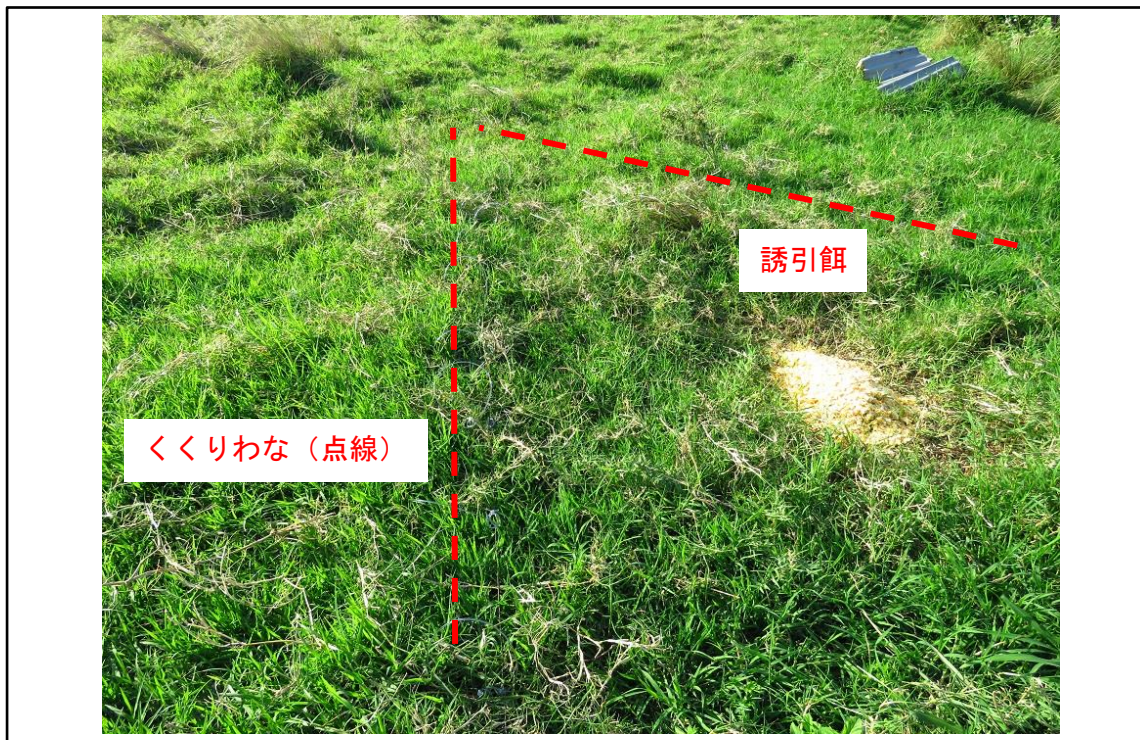


図 6.3 くくりわな (上) およびくくりわな設置状況 (下)

6.3 調査結果および考察

(1) ボウネット試行結果および考察

本調査ではセンサーカメラを設置すると同時に約 100m 離れた地点から車内より目視にてクジャク個体群 (合計 7 羽) の動きを観察していたが、群れを統制するオス個体の警戒心が強く、ターポリン等へ関心を示す個体に対して警戒声を発して結果的にカメラやボウネットへの接近を防ぐという行動が見られた (図 6.4)。このため、ボウネットそのものの効果については評価できる結果には至らなかった。また、センサーカメラによる撮影もなかった。昨年度のターポリンを用いた誘引試行では複数個体がクジャク写真に接近する行動がみられたが、今年度の個体群では当該誘引物を警戒されてしまったことから、調査時期や個体群により効果の差の出る誘引手法であることが示唆された。

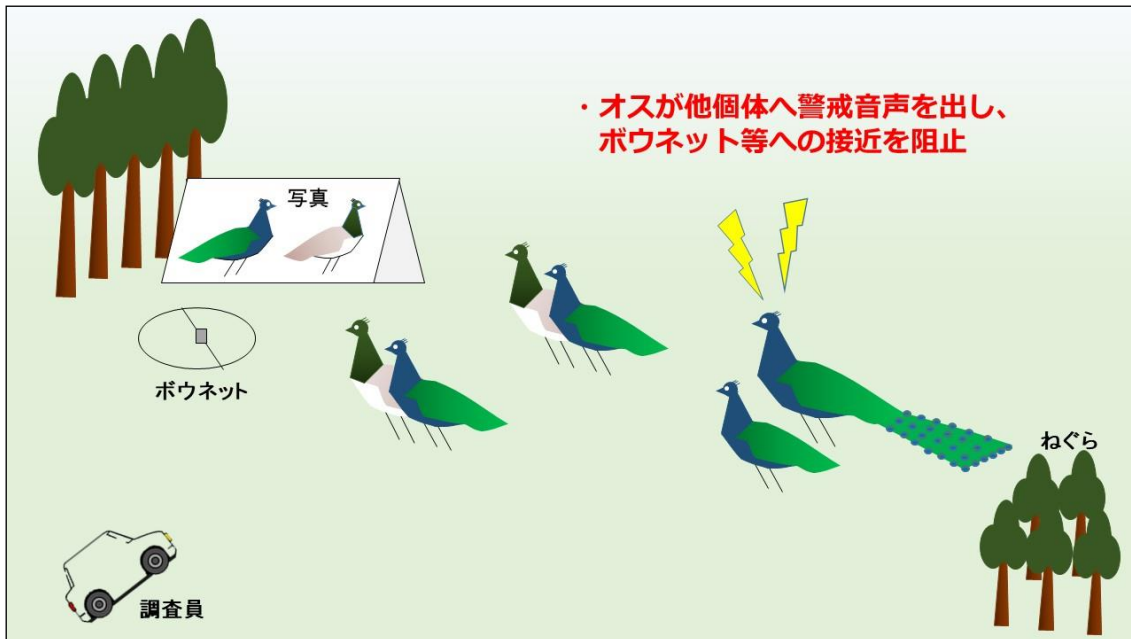


図 6.4 ボウネット試行時のイメージ図

(2) ネットランチャー試行結果

今年度はネットランチャーによる捕獲はなかった。しかしながら、オス個体に対してネットランチャーを発射しており、その際に個体にかかったものの飛翔して逃亡された。これは、風によりネットが開き切らなかったことや、ネットの重量もオス成鳥個体を捕獲するには十分ではないことなど複数の原因が考えられ、今後改善して再試行する必要がある。

(3) くくりわな試行結果

当該業務により、誘引した 10 個体のうち、くくりわなで 1 羽（メス）を捕獲した。個体回収時に捕獲個体が暴れたものの、くくりわなから外れることもなかったことや、本わなは箱わなと比較しても軽量で機動性が高いこと、さらにオサハシブトガラス、チュウサギ、ネコが周辺に生息していたものの、混獲がなかったことから、今後の有効な捕獲手法の候補といえる。一方で、くくりひもの径が太くまた太陽光を反射しやすい材質であることから、その他の個体に警戒された可能性もあり、今後くくりひもの径および材質を検討していきたい。

6.4 今後の方針

次年度の試行場所については、本調査でくくりわなおよびネットランチャーを試行した地域とする。当該地域（牛舎周辺）であれば毎日個体が採餌等に現れることから、ターポリンを設置せずともネットランチャー等の効果を試行できると考える。また、餌については、ネットランチャー試行時に使用した牛の餌（トウモロコシ）に誘引されていたことから、引き続きトウモロコシを利用する。また、捕獲機材についてはネットランチャーおよびくくりわなを併用して複数設置し、同時に複数個体を捕獲できるよう検討する。